



南小だより

E-mail kogenminami@ac.city.myoko.niigata.jp

〈教育目標〉

進んで学ぶ子

思いやりのある子

最後までやりぬく子

〒949-2112 妙高市関川1592

TEL: 0255-86-2104

FAX: 0255-86-3212

挑戦は人を育てる

校長 渡辺 伸一

妙高高原南小学校の6年生15人は、9月5日から4泊5日の“妙高フレンドスクール”に参加してきました。5日間を終え、15人が得たものは何だったのでしょうか。

フレンドスクールのめあては次の3つです。

「人とかかわる力をつけよう」

「5日間をやりぬき、たくましくなろう」

「自分のことは、自分でやろう。友達と助け合おう」

ところで、数年前、退職を迎える中学校の校長から講話を聞く機会がありました。その時に聞いた話で印象に残っているのが、『人生にはいろいろな場面で選択を迫られるときがある。私は、楽な方と大変な方、どちらか2つの道から1つを選ぶとき、努めて大変な方を選ぶようにしていた。いい、悪いは別として、そう心がけていた』という話です。普通は楽な道を選ぶでしょう。しかし、どちらの方が成長させるかと問われれば、やはり大変な方だと思います。険しい道にあえて挑戦することで達成感や成就感を得られます。人は成長するのです。

フレンドスクール第3ブロックの4つの小学校（妙高高原南小、妙高高原北小、妙高小、新井南小）は、学校によって人数の多い少ないはあるものの、どの学校も1学年1学級です。自校では同学年の児童とかかわる機会は限られます。どの児童も仲のよい人と過ごす時間がほとんどだと思います。



5日間という長さ、知らない同学年の児童との生活ということで、おそらく始まる前は、どの児童も不安を抱いていたことでしょう。6年生にとって試練だったかもしれません。しかし、人とかかわる経験、助け合う体験を通して子どもたちは多くのことを学び、たくましく成長したことと思います。

この5日間の経験がきっとどこかで発揮されます。残された小学校生活、そして半年後に始まる中学校生活、さらにはもっと先の人生に役立つことと信じています。

挑戦し、成長する南っ子に幸あれ！

フレンドスクールに参加した妙高高原南小学校6年生の感想より

- ・ぼくが感じたのは、みんなで協力し合えば何でもできるということです。妙高アドベンチャーでは、1人ではできないことを協力してできました。他の場面でもそういうことがありました。ダンス練習では「本当にダンスができるのかな」と心配でした。でも、みんなから意見が出たし、自分でも意見を言って本番では楽しく踊れてよかったです。
- ・正直知らない学校の人と仲良くなったりするのは、私には難しいなと思いました。でも、自分でも不思議だけどめっちゃくちゃ仲良くなっていました。今までの自分とは違う自分を見つけたと思います。人とかかわることが、ものすごく大事だなと思いました。とってもいい経験になったので中学校等で生かしていきたいです。
- ・自分の意見だけでなく、みんなの意見もあって協力して達成できるのだと思いました。それはダンスの活動でわかりました。登山では班の仲間と協力して頂上まで行けました。頂上に着いたときはとても気持ちよかったです。また、失敗は恥ずかしくないということもわかりました。これからは授業中も積極的に手を挙げていきたいなと思いました。

妙高市小学校親善陸上大会を終えて

9月14日、雨の降る陸上競技場で『第12回 妙高市小学校 親善陸上大会』が行われました。会場では競技役員をしていただいた保護者の皆様や、応援に駆けつけていただいた保護者の皆様から熱い声援をいただきました。この場を



借りてお礼申し上げます。

妙高高原南小学校の児童は、学校に残る児童からの応援を胸に、雨で滑りやすい中、本当によく頑張りました。6年生の部長を中心に、集合の素早さや、あいさつの声は特に私の心に残りました。

